

第3回国連防災世界会議パブリック・フォーラム 会長挨拶要旨

日時：平成27年3月16日（月） 17:00

場所：東京エレクトロンホール宮城（宮城県民会館） 6F
601 大会議室

- ・年度末のお忙しい中、国連防災世界会議パブリック・フォーラム「災害常襲国日本「道の駅」の果たす役割」にご参加いただきありがとうございます。
- ・さて、「道の駅」の制度が始まって、22年という歳月がたちました。
- ・「道の駅」は「道路にも鉄道のようにトイレがあった方が良い。」という提案からスタートしました。制度スタート時に103駅だった「道の駅」は、現在1,040駅にまで増え、今後も増加する傾向にあります。
- ・「道の駅」は、休憩機能、情報発信機能、地域連携機能の主に3つの機能を持ち、道路利用者への快適な道路交通環境の提供を行うとともに、地域の要望や特性に合わせて独自の進化を遂げ成長してきました。
- ・進化し続ける「道の駅」の役割は、「道の駅」によって異なり、販売、観光、福祉、防災等幅広く、国からも「道の駅」を地方創生の拠点として位置づけられ、更に活動が拡大していくことを期待されています。
- ・本日は「道の駅」が持つ役割の中でも防災について焦点を当て、「日本モデル」として地域防災の現状と課題について確認し、世界に発信したいと考えております。
- ・「道の駅」の防災活動が顕著に見られたのが、4年前の3月11日に起きた東日本大震災でありました。
- ・道の駅自体も被災し、停電や化石燃料が不足する中で、被災者の避難所や自衛隊の受け入れ等活動し、非常時においても地域の拠点として活動しました。
- ・今後起こりうる災害に対しても地域防災拠点としても活躍が期待されているところ
です。
- ・結びに、本日のお集まりいただいた参加者の皆様に心より感謝申し上げるとともに、世界からお集まりの皆さんには「道の駅」について、少しでもご理解いただき、「道の駅」が世界へ発信されることを祈願いたしまして、主催者挨拶とさせていただきます

す。